かなものがあります。組織は変テランであり、その目利きは確ら水処理を長く担当してきたべ

での実績をお聞かせください。

これまでの事業活動の中

リング事業部が発足する以前か 田中(聡)課長はエンジニア

です。

がら体制を強化しているところ

たり、

新たに弁室を設けること

流用して設置できないか、といができない、既存の流量計室を

わりましたが、経験を生かしな

鈴木

緊急遮断弁の設置に当

遮断後の復帰操作を行うための

ます。通常の緊急遮断弁では、 った相談に対応した事例があり

管理の各業務を統括する

営業

もともと当社では、

せた気

0

利

提案

アリング事業部の設立は不可欠

と」などの相談を受け付ける窓部で担当する事業体の「困りご業課は、エンジニアリング事業

口となる組織です。私を含めて

ういう課題を抱えているのかを

ェクト営業課が担います。今どる困りごとの情報収集をプロジ

られる困りごとは、必ずしも具最初にお客さまから投げかけ

体的なものではなかったりしま

水道事業体が抱えてい

るという流れになります。

現場調査まで含めて、

細かく把

人体制で全国をカバーしてい 水道事業体やコンサルタ

応していくためにも、

エンジニ

と考えています。

## ツエスジーエスのエンジニアリング事業を紐解く

0

## 困りごと ッツエスジーエスに相











置も含めて提案し、 りました。 り、広い弁室を設ける必要があ 弁本体に付属していることもあ となる流量計室は非常に小さな 復帰装置」と呼ばれる機器が

しかしながら、現場

しました。

クトなタイプの緊急遮断弁を配 を分離することができるコン 形と呼ばれる弁本体と復帰装置 スペースだったため、 気通貫 採用をいた 油圧分離 を広げて提案していきたいと考 えています アリング事業部の中でさらに 後はこうした取組みをエンジニ ってきたものではあります。 田中(聡) リング事業部発足以前から行

そのまま導入できないケースが

そうした場合には、

細部まで自分たち

じています。

事業部発足以前にも、

、製品の据

実はエンジニアリング

素消毒し、 水などをくみ上げ、 、給水している浄水場くみ上げ、次亜室で塩 地方部では地

せて、 置を設計・搬入 さざるを得ないというケースも 老朽化しているものの、 あります。そうした状況に合わ 八口減少により処理水量を減ら ダウンサイジング

を踏まえて「い 柔軟に対応できる体制を整えて 害時の仮設利用や緊急対応にも いか」を考えた提案を重視 ル用の装置を常備しており、 しやすく、安価で、管理 このように、既存施設の条件 また、当社ではレンタ かに搬入、 設置

う形が中心でしたが、エンジニ 求められるものです。これまで 間や施工手法にも細かい配慮が は施工業者さんに製品を引き渡 「あとはお願い 水処理設備は、 設置期

思

(1

寧に拾

庁げ

た製品」を生み出しつつ、

境への配慮、

安全管理など、 **副産物の扱いや環** 

工

杉本

なったと感じています

進めやすく

## 田中 杉本 忠明 エンジニアリング事業部 エンジニアリング技術部水処理技術課長 写真左から 取締役/エンジニアリング事業部長 鈴木 直樹 田中 エンジニアリング事業部 エンジニアリング事業部 エンジニアリング事業部 プロジェクト営業課長 ニアリング技術部開発技術課長 添ったサービスを提供すること ジニアリング事業部です。 を目的としています。 後のメンテナンスに至るまでの 場での設置工事、さらには設置 特殊製品の設計・製造から、現 とを志向して生まれたのがエン なビジネスの柱を育てていくこ 今年4月に社名を清水合金製作 務部門については生産、 発足の狙いを伺います。――エンジニアリング事業部 断弁などライフサイクルの長い **人を掘り起こす営業活動、アク 小処理装置や配水池用の緊急遮** 4本部体制を敷いてきました。 、材を横断的に集め、一つの組 杉本 連の流れを自社で担える体制 シリーズに代表される小型の から変更するに当たり、新た エンジニアリング事業部で 水道事業体の潜在的なニー

配水池用の緊急遮断弁や流量調当社が手掛ける製品のうち、

織の中で協働する体制で、

まさ

もあり、

お客さまと一緒になっ

登半島地震を契機に国では小規

規模な簡易水道施設などを統合

する広域化の流れがある中、能

クアシリーズの開発を担う水処

限られているが緊急遮断弁を設

ている潜在的なニーズを掘り起

き

それに対する解決策を検討

お客さまから相談をいただ

置することはできるかなど水道

事業体の現場での困りごとを丁

めて、われわれエンジニアリン

その解決策の提案まで含

Ų

必要があれば製品開発まで

グ事業部一丸で担いたいと考え

に重要な要素となります。水質処理の分野では原水の水質が特

踏み込んで提案しています。

が良ければ製品を使える範囲を

広げて提案できますが、

逆に水

調べてほしい、設置スペースがアクアレスキューで対応可能か

原水水質が悪化しているため

導入する余裕すらないような小

規模なところもあります。こう

私を含めて5人で活動して、

した小規模な水道事業体が抱え

ニアリング技術部の下には、ア理課で構成しています。エンジ

現在、水

水道事業においては小

でなく、

更新工事を含めたト

タル提案がで

きる組織を目指し

門を担うプロジェクト営業課、

しています

た自社製品のPRを主な業務と

規模なところもあれば、職員が

圧倒的に不足し、新しい技術を

役割です

田中(聡)

支援していくことがわれわれの

策を形にできるように技術から

ム報部門を担うプロジェクト管

ジニアリング技術部と、営業部

主に技術部門を担うエン

ようなニーズの掘り起こし、まントを訪問し、案件につながる

ŧ

全てを内部で解決できる大

一口に水道事業体と言って

Ś

お客さまの困りごとの解決

ミュニケーションを密にしなが す。プロジェクト営業課とのコ

エンジニアリング事業

では、

単に製品を供給するだけ

部は、、、

談に応えられる体制が求められ の状況に合わせたお客さまの相 新作業を進めるためには<br />
現地

の組織体制について伺います。

ます。 3

エンジニアリング事業部

に横串型の組織となります。

お客さまにより寄り

決めていくある種「オーダー

の製品は成り立ちません。 なり、これがなければ、

また、これまで納品してきた

30年が経

規格製品や即納品の一般用バド」に近い製品になります。

含め、

お客さまと一緒に仕様を

設置方法、インターフェースも 整弁、アクアシリーズなどは、

築する営業部門の連携が必須と

これら

計・製造を担当する技術部門と、

要望をヒアリングして案件を構

人れた政策展開が検討されてい ての水供給を行うことも視野に

す。

事・メンテナンス課が置かれま そして現場で直接施工を担う工 製品の開発を担う開発技術課、 理技術課、緊急遮断弁など特殊

寧に拾い上げています

事業体からのリピートオー

ター 水道

鈴木 開発技術課は、私を含

バルブ製品の営業では、

た新しい市場に対

田(天)

プロジェクト営

表されるいわゆる一般弁と呼ば が主体となるバタフライ弁に代

れる製品を主として取り扱うの

われわれプロジェク

ち

緊急遮断弁や流量調整弁な

き、生産部門と連携して製品化案が実現すれば、受注をいただを立案することもあります。提

生産部門と連携して製品化

質があまりに悪い場合は代替案

れた水道事業体の相談事のう プロジェクト営業課から寄せら め4人体制の組織となります。

ト営業課では、エンジニアリン

何よりも重要です。

そのため設

それらのベス

トミックスを図っ

模な集落など

を対象に分散型や

て製品を作るというプロセスが

各本部の

ルブとは異なり、

個別の課題を

過し、更新時期を迎えてい 製品も設置から20年、

解決するために設置する製品で

既存施設を動かし続けながら更

田中(聡)氏

を広げていくため、 製造だけでなく設置工事やアフターメンテンナンスに至るまで事業領域 体に寄り添ったサポートの充実を図る。今回、エンジニアリング事業部 なるエンジニアリング事業部を発足させた。新たな組織の下、 の中核を担う社員の方々に、 水道用バルブメーカーのキッツエスジーエスは今年1月、 社内の生産、技術、営業の各部門をまたいだ組織と 新たな組織が目指すビジョンを聞いた。 従来の製品 水道事業

したもので、通常であれば、新として緊急遮断弁を新たに設置 利いた」製品提案は、 のニーズに合わせて対応をい 存の流量計室を造り変えること 用も要することから水道事業体 を提案します。ただ工期も、費 たに弁室を設ける、 もともとこうした「小回り この現場は、 エンジー 震災対策 アクアシリーズです。 が多数存在します。 られていることが多く、 狭いスペースにでも設置可能な 事例も出ています。その解決策 毒が効かない細菌が見つかるな 水質が悪化する、 れまでは比較的良好だった原水 として提案するのが次亜室など トスポリジウムのような塩素消 既設の次亜室はスペースが限 その対応が必要になる またはクリプ 一方で、 設備を

す。中には、既存の争水布设うにするなどの工夫を行い 備を組み合わせて運用できるよ 限られた場所に合わせて小型化 した装置を設置する、仮設の設 中には、既存の浄水施設が ったことで、

場合には、 ます。こう を止めざるを得ない期間が出る を検討します 設施設には新 を入れる場合でも、なるべく既 で考える必要が出てきました。 大きな役割で で踏み込んだ提案を行うこと して供給を維持できるようにし など、既存の設備を生かす方法 例えば、 エンジニ 狭 た施工の細部にま あり、強みだと感 ンタル装置を活用 いスペースに装置 しい穴を開けない リング事業部の また、設備稼働 るにも、 組織ができたことで、従来の テナンスまでを一貫して行える 考えています。製品一つ運搬す になったことは大きな一歩だと スを考慮した提案ができるよう 0 が目指すビジネス展開は。 「製品だけの提案」から、施工 しやすさや日々のメンテナン 少人数で効率よく現地



田中(大)氏 部の一員として、打ち合わせにが、今はエンジニアリング事業いづらい雰囲気がありました も呼びやすくなり、 では気軽に呼び出すことは、言

わせ一つとっても、異なる部署

田(天)

現場での打ち合

## 断型組織の強みを生か

地の事情踏まえた納入意識

がら、現地でのニーズを掘り起

じてプロジェクト営業課ととも

す。プロジェクト営業課からの提案にも慎重さが求められま

質が季節によって大きく変動す

水処理製品は、原水水

るなど不確定な要素も大きく、

情報を基に、現地の状況をなる

べく正確につかもうとします

に現地調査を行います。

必要な製品の仕様が決定した

多く、

注意が必要です。

が、

実際には見えにくい部分も

チするのかを検討し、必要に応合わせてどういった製品がマッ としては、お客さまのニーズに

主な業務です。おおまかな流れ

ら課題解決し、

実現させるのが

していく流れです。

どの製品を対象に技術の視点か

バルブ製品の営業とも連携しな

隔地での営業活動については、 部署です。北海道や九州など遠 り具体的に打ち合わせを進める グ事業部が扱う製品に関してよ

こすように努めています。



鈴木氏

業部の強みになっていくと考え

つひとつがエンジニアリング事 せんが、こうした積み重ねの一

営業・技術・工事・メン エンジニアリング事業部 まだ道半ばではありま へ部署がまたがったことで、コ へ部署がまたが、営業から技術 ミュニケーションに苦労した経 件を受注したことがありまし え付け工事まで含めた元請け案 が初めてのチャレンジだったと 験があります。また元請け案件 た。現場監督は田中(大)課長

ではないかと考えています。 ために動く意義が感じやすいの 業部の下で一体となることで、 同じ方向を向いて一つの案件の だったという反省もあります。 いうこともあり、会社として部 その点、エンジニアリング事 -トが不十分 門については、まだまだこれか 大規模更新時のフォローも重視 取り換えも検討していきます。 じた提案やコストを抑えた製品 していきたいですね。 一方で工事・メンテナンス部 納入後のメンテナンスや

署間の連携やサポー

グ事業部として、元請けまで含らが本番です。エンジニアリン 場を具体的な案件形成に結び付 ていく考えです。 けるべく、引き続き活動を進め めた工事案件の実績はまだあり てきました。今後、これらの現 わせをいただいている現場も出 ませんが、既に何件かお問い合 田(大

営業としては、

設計の知識を活かし「気の利いり組んできた課題に対する製品 技術面ではこれまで取 います 技術部に具体的な設計や製作を す。その後、エンジニアリング得ることが最初のステップで 注につなげていきたいと考えて 大規模向けの製品や特殊弁の受 依頼し、今まで手掛けていない 役所やコンサルから物件情報を まず工事案件の情報を収集し、 ありがとうございまし

急遮断弁などは、更新需要に応 た分野の認知度も広げていきた ップしています。今後はこうし 様の異なる製品も多くラインア 特殊弁や緊 情報伝達のスピードを上げ、 ようにしていきたいです。 で、より広く認知してもらえる 理量や製品ラインアップの拡充 製品は認知されていますが、 です。既にご紹介の通り小規模 ができるように進めていきたい とに対し、さらに具体的な提案 サルタントからの要望や困りご つなげて 客さまに喜んでもらえる提案に キルの共有も進めたいです。お 田中(聡) いくことが目標です。 お客さまやコン

化した後、納品、設置、施工すら、設計し、これに基づき製品 ルの習得 とのつながりも強いので、 提供できる体制を早期に作って の力をうまく活用しながら、 担い手不足が加速する中、 キルも経験も豊富で、 す。そうした中で、われわれキ 少なくなってくると考えられま は工事を受託できる企業の数も す。工事・メンテナンス課はス 整えていきたいと考えてい いきたいと思います。 カーとしてさまざまな工事も 全国的な お客さま 今後 彼ら

規模施設向けの製品への認知度 ッツエスジーエスを選んでもら えるよう研さんに努めていく考

す。その他、当社は処理量や仕 えです。 鈴 木 制御系の特殊弁に関し

は上がってきたと感じていま

くか、一緒に考えながら進めるを会社全体でどうクリアしてい ようになったと思います。 を解決するための新しいチャレ 共有が進み、お客様の困りごと ことが重要です。新しい組織に アクアレスキューをはじめ、日 ンジを自分事として意識できる なったことで、課題の可視化や も新しいチャレンジです。これ 事に関わる資格やル アクアシリーズについても、 一緒に考えながら進める

場での問題を共有しやすくなり ような課題があるのかなど、現 に据え付けられるためにはどの

小さなことかも知れま

ては、今後はIT、DXの活用

いと考えています。